伊吾物語

全

208
125

帝国図書館蔵

国立国会図書館　伊吾物語 208-125

ガラス使用

208
125

国立国会図書館　伊吾物語 208-125

ガラス使用

人間一生
五十年

伊吾物語

谷峩作
北嵩画

伊吾物語序

今腰骨毛世ゟ添ふる観者收腹歟
抱物ゟ腮の外ゟ
一日書肆山青堂ゟ
ゟ未ゟ彼書ゟ編ゟ
ゟ性固者ゟ其意ゟ

国立国会図書館　伊吾物語 208-125

ガラス使用

予が傍ら滑稽なる書著せしこと等
雅兒十返舎のあるが是等
をぬき編をと記したる書あれども皆
筆乏しき言ふ空うそ深智才
呼ぶ果くし芸世ふ明るく
沢量我亦それ糟粕
編んとそれ當下伊吾よく
ごと童子れ喚を用いふも芸今不
中乏金時とも半郎伊吾
ふんだもある是ぞ実
と伊吾名ぞかさ
天命を知ればまず編んと其三ツ

国立国会図書館　伊吾物語 208-125

ガラス使用

伊吾物語

を著たくの山青堂主人風ちもるふ、おうく

ゟもちんゟもちるきくとまらふ三ツ手ゟ拔ろく

ソラ笑ゟゟたく

文化午ゟ初春

うちぐの谷裁述

国立国会図書館　伊吾物語 208-125

ガラス使用

智者もまどうぞ

よの中のむつかしき事もなく
とゝてきたるとし

強者都の影おそれぞ

おそろしの物ゝ化物もよの深うそ
あるそしき

美女よ馬鹿あり

猪

心も無くおもひ込とそびくもの

色男

国立国会図書館　伊吾物語 208-125

ガラス使用

伊吾廿一歳像

人間一生五十年伊吾物語

梅暮里谷峩著

それ天地夫人間ハそもそも小天地といつゝ既ニ四肢天ノ字ニ象り耳目鼻口の形ニ似たり頭円ニして天君ハ心を中ニ居く五官を治む五臓の主る所ハ通じて六人ぐ異なるといつゝも其中ニ智あり愚あり強あり弱あり示現ニ見ゆる大智ハ没明ニ見ゆる小力ハ工愚ニ見

国立国会図書館　伊吾物語 208-125
ガラス使用

あれ馬鹿。怜利よ似く非ざるあれど。煩毒ぐ悪癖を
行ふ。をそひ過され。文殊ぢ智恵も短命ちうんと。
安うござる。親ぢ心を一枝そるべし。往昔建久ぢ比相州
行激村小充ぢ平とのつぢ郷士あり。夫婦ぢ中ふ
一人の男子あり。名を伊吾とつふ。今年十三才ぢれ
ど。と弱のう人ぢ所ぢ虫の所為ぢ。それをそぐ七ツ
八つぢ子のどくぢれども。両親ぢ

唯夫ぢ人ぢ育ぐぐう成ぢれうくぢ。
と。親ぢ欲目ぢ心よりぢ。手柄ぢ
何一つをかぢねばいろいろ
れうもぢれよぢれ。そ
け。中ふを按摩が手ぢ金ぢ
なうぐへあうと八間ぢちと。
ぐ門ぢ

ちれがろんまよろちまでくもなくあろ純平女ぶりさぶ
女ぶりおさぶよめろたもーくかくまろ あんまあんまさんたの ハイあんまろくくもきまそろ火ひさ
くの世せ事さへントのひちぐらきまろさぶ かいくしくたそぶことと呑のみ下ひぶたなぶと
ぶんをろつけめるーと ットちやまんをあんまとろをふよイヤ呑のみまそせーが
さぶめくホンニおめくまやいひまけもちのぶんくとおそくちろくをさぶ色しまろくをろそぶもあらふぶちめくも
まろくれ毎ろの純平ぶ乳きまろたろろそくく乳きの。

どぶがろくぶぶーろろよめろふまろくろろくろろあろくろろ。
ろ毎まもちくさろだんまるけれど。女のかるーさみろぶのとぶ
神くちろぶぶんくーまそろぶまろぶあろぐろいるぶ。ホンニときぐ
つろくとおめくまやまひまろ乳きまろいろくろくれきまろう
ろろ舟をろろもろ人をまろくろ中れおろくをろ純平ぶ心をまそろろくと。死ぶんこ子の手をかぶくまお
まろぶかろくぬくまをなひぶろてろふさぎ。ちまくをぶ

ひん　ま　そで
貧しき人の子ども。袖をまさぐりぬ日とてもなくくものうえにのみ
ありをりておやふせうでありふぐるとてもまうけいでゐ
ろでできあき
け出来ず秋まぐくまうくうんなされべのまうぐでよでむ
なトのぞもあんまへんじもせぞらつきまをさま
なぞをうぎゃひぐくおまうくとむくくとやうかる。
これのれおやうへをどんなやふあふともハテなる神をうくれ
神へ出でき秋とうくもモクヨどうえんぐ。今月を経て五月

六月七月八月九月よるれがをむとうまれ。それが年ごろ
さ三月きちち母あ在へ世とぐけくせへうんなされべの
ふーるまをむとうまれ。ちぐぐびよかれを赤
めあちぞおちまいうるこれほ
ちぐぐ。十二へかをを赤ちやう人へへキまちぐぐ。人
のまれをかりく赤ちやもをさ
いくう言うもちれあうねよだ。えな郎をだなせん

国立国会図書館　伊吾物語 208-125
ガラス使用

どさよ居るさる。泥平々何やうやれ男ぐるさ歩さ
ぐぐぶぐ日ぐくれざあかうもあんこへもしくいまろ
いまぶろう何ぞぶささふさろまること称へそんざ。
あーさいきろと肉ふ居こうとつげまかうぞ。
だろくくの二望ちろくもあるかをおうまおさび
もくく落ちくくきものくくを据ともそねへまさひろ人
らんことろとまろうを伊吾を伊吾を伊吾
ふりとろうひいざ
あんまのべぐぞうふとん

さんあとそよふかれてる居るをまろねへワアイてをうろへ
ちゃろもでせいーかぐせいーられどきろぶおそおんはよどんの
あんまいるをいびナめんつろどおろくあぐくをそ「コレ泥平どのく
おろさんぐろろ、お肉弐。イヤかあろくもくるーを
だまさまろさの。泥平どのろよぐるろへ出さろ出へ。
むし出て居さとさ。三度がくおぐざりめーを
ひいぞ来一ろうかろさろおぐろねぞ。そ代り
ろ落生やはあいぐ。おろへさんのちぢぐろさ母のと

国立国会図書館　伊吾物語 208-125

ガラス使用

国立国会図書館　伊吾物語 208-125

ガラス使用

めらあげ。あさましきまでおぎりくかの足の法師さき牛ぞのん
でりふけて金をかりてうりてよこすべりふんなぞるまの。それんをうちまもいの思心どころもなくいま
今はべおべくとうちまつくるこ。ろうぐろうまつめくく
しものとうなんさぶろうねやうぐ。何ぶまくもぐまさまろうぐろうのくト大声あげくころきちくされ泥平
ろうて伊吾ろうをぎだれさきんまもひとをそのとりのちをろくあんまのびるとるげへつけろくく
ひろくるとうろきろうぐろうぬもぐんくまものあらぐんまをうせア。ここのをむくくろうろを伊吾ろうをチヨイトさふんまさいまな
トなるげをぬくひやしハクシヨンとくまもとくろうあをなるぐろうをとされがふろうのそんあ
めちきろうくなるくあてサアチンントのひるくとらうでんまつきそひきろくチンくトなるをかんぐもくひやむをまをと
あんはナゼさぶろうもぐんくまものあらぐんまをうせぞやくく。
ちんでうぐ同ぐろんへねとそくく。まんざく肉ふわろぐろ
ろをはろひまくまふさぐろくんとろ。ユあん
まりぐさぐるぞやそのろんへぶれもるこもせねふあん

国立国会図書館　伊吾物語 208-125

ガラス使用

さんもなく。人の髪毛をぬいとり。ちゝをかんざゝうでもられーくなにぞ。かさゞけちゝくさゞがちゝ母やよのハ手ざゝ。ふよおとの家でいさゝそくよりうおもゝくもひよせうト大あぐらかゝうぐべきとゝさゞちゝぐらホゝゝトちゝふ兎へゝおうーくわゝの「ヨホ、ヨホ、多ゝーヨホゝゝトちゝふちゝぐら兎よ子どもよつめゝをうるよ。沢在親ゝちゝよくふちゝるもちゝだのそんなおとゝさんをうさだおりぐゝおめゝまちゝをゝせ。なのちゝまゝよどくなゝちゝるへぞ「ちゝんぞ「ちゝぐらひくるあゝとおもゝくも。子どもやどゝ正ちゝるもゝよごさらねゝハテもゝよをはゝちゝくもゝちゝるせん。紙手ゞ肉よ居れべ。是非つゞしくゝゝちゝもゝぞんぞありなゝまゝのー。ちゝなりにゞゝちゝる言ゝけをゝゝちゝんの前ゝちゝをゝちゝくおゝゝよちゝをゝせるゝれる。

国立国会図書館　伊吾物語 208-125
ガラス使用

こえうおね　ぐるへうおんさてて
あえま　伊吾をかへりてや
へいろぐ言くもらそれあうぬと
まぜうぞそれかりふまんどそくを
ち方ふも荒神食ぐまるぞやへ
ぐあきを。秋ふも美理ふもまちがつくひえる。
あえまモシへ人相や手そちぢを去れわへぐ。今ふもの音
せふ声を台く見るふ。ちぢがようくつ
中年う晩年

一ぬけくらくら日ぶぞそれうちち珍お茶やの類をち
そ。法をちくち汚名をかへ見せえそれえうぐぞいろけな
くちぞぢうてへとぶ音ぐ歩つるぬ。よれうくさきを
はそちむぐうぐぶりやそへ　かかるアイくおのびけ
うぞふへくさいそくぐぬり上ぐふおとおんくう。声をを
考るとまうぐくして音ぐぶのうぬ。ちぐふおいぐくま
あんまうをつきそそおて（生るとまふ（生ふ又うく
ヨちくうちうぬぐ（生ふ指ぜさくまりり指ぜさくん

国立国会図書館　伊吾物語 208-125

ガラス使用

ふそをつきかけあんまりがあらくてなづくべ
いとまざらく申けどもむふまもれおくくまれ
さるをふーんよもひつえをあんま
おくこまむおもとあり　ハテかづこ
れとるくだーく。かつくんとそろ
へてあうを考ふ雪隠をそ
おふまそひくむふまよ言るく。ぶり
ふぐー。さくく甚平ふくろうん我つくせ。越王
句践会。呉王ぜ小使をおろくく必死をのがれと
サイぐ。妻をくつくひーくまーを世ぐ。夫々唐土
々又くつくとくへの口論るく。まる
がけ。呉氏ぜこれまつまきまるふ
れお何ふくをせよがつてんのやうね
トてきんでそもおそうさられべやたく
ぐねばくうぐうさおをつまあさうぐそ
せべまきりふさまをまつくへがま
　エイあんまぐもおくくを
よせうをひくうぐ伊呂々かうをケヨ
ふひくくさそくれふーふ
チヨンチヨンとと

国立国会図書館　伊吾物語 208-125

ガラス使用

○伊吾十四才より十九才までを考ふるに
伊吾も十四才もうかく迄ゆえ。十五共爰ともなれば。
そも男れ数とく初手より寺くうさせ〳〵ふんだる
まうもむがやとくと。ゆひのそばがきさふで。十
六の年ごろよやこよや曲ずがきもするやうのかう。
十七八とこれ草ざうしものごのかるた共ものを好く
ようこそ。ま八のまうらを門てゆ出ごで。小本類又浄瑠璃
小説ものくさびちくさうぶてまんもれまうれ。
ゆふかおりひ。ゆふまおせくいまをでることなかりそね。
ちよをべ。なでおくあひくるもれをそうかうふ心をおき。
親れやふらを尚更おくゆ。おろとくおもひ子れかくと。
伶利ようれよれうれしさ。りや雑念ごくさふる。
ごでひらでゝせまいこと。一ツの苦労をのがれまで。
三つれ幸者をまう。ゆ二條ゆ苦せねど身れ毒と。子に

国立国会図書館　伊吾物語 208-125
ガラス使用

きつふ親心よ。やくく毒をさもおもふ子をなをふ
あるなりひそかにと友ぐもつれつきあひをそで
あ。いろ〳〵さまぐのをしへをせきとめけるにや十
九とせ年ねたるにそけんく。さそふ水あるにそ
つゝとおもふ心ちにそ。おろかれくせうく我性つよ
く。それにがれかたくきもの。それらく吾けにと兎
角ふるまをとると友ぐもつれ。ろもまくく。ろぐそどぞ。

とふあるあんさんとおもふどきき。扇ケ谷ん法下。楊枝が
ひろひをきつゝいぶせしめいとそ。法下れ
かくもほれぼれ〳〵法下ねいやいや
庄左ゑんうサヤくむさしとあぐんるせん庄
おぐんるせんとうくあぐるせんとうくあぐるせん庄
なれが目ざるれ合うとうぶ庄左ゑ

国立国会図書館　伊吾物語 208-125
ガラス使用

おそろひのそで[衣]の用意[ごよう]かな

[やうい]

[やうい]

[ごぜんじゃ]

[ごぜんじゃ]

[ごぜんじゃ

伊モシへおくさま三年の代々。二百
十八文とありまする。二朱ホ八百
八文ほりゃまいりまする。サテまた人を勤ぐるの
ことを言うまする。そうど十二文のとうまちかう。則ち物
伊
穂よそうくまするそれぞも四文渋ぐ十二文おぐろう
法
まする。払さんあんだようおぐる。それともあ心
伊
うのあるくまするおぐろう。伊吾物語

伊ここに一二十六文そんぢょうおぐろうまするそれぞも
ちりん心うちひさんぐそんで十二おぐろう
法
まするおのもあ々伊我ぐまする。此今ぐそうまする。
をかうくきくぐされ。残ぢまた渋ぐまするなお神酒ろ
ようぢまする。神食のぐまくおかろくまするおぐろう
ねまする。おくあるくまするまた。庭やのまくむぞうさまするぐ。
引ぐが利我神食々おくまするおぐる。相図をまする
らまするまくまするまれとトひつかられこまくおりまくへんでやく
伊

国立国会図書館　伊吾物語 208-125
ガラス使用

おやまをぜさそうくれだ。ぢんどや
ろくにち三七日の水行せんが。ぢんどや
そんをやぢやうとちびしさ呼ぶ。ちんな女
人物也。ぎやうけんれうやいねえ
さうさとぢんどやそうぐぶざうろうおの
てなけ桶の水をざんぶとあびくおやぢ
ふ。ほう。ちぶえさうろうぎやうえ
ぢんどやそんなう

ぶぐぶぐとそれくハアこゝあトとじくせうがあびきやうぎやう
をとり口ぶるてアレくアノ雪れふりなどや
つぐくれちぶうくもれへこんをひ。今ろうかろう
我れけうへトとてゝ水のあるやうぎやうの桶
桶ゝ茶の水ぶろう。よろちれるくあれろうをあ
びちれへ。おろもりさ抱ぶくおいくのぶろう。はるこんろく
氷行小西あきろうくゝ

国立国会図書館　伊吾物語 208-125
ガラス使用

てをうちかけく　又れがそうわざぞとひやうぶあむらうそう
おけらつそうアレくト　袴をまねて　よく又れこぞんかこれ五本。
うまのけもふえとぞ手まく大雪おびぬさきかう雛たち
ぞりまろう。アくまんきやトてをけふもられそうづえふあも
なそれなるぞこれこれがやうそうねがアあ
かゝまぢくくわくわりーが
くろう。かれ松浦さよ乞々。夫をおもふ一念が。さよ
かくまくく石とする。それとまれこゝかわ且元我々

法をもおがえんとあ。石ろうはちあるそ
ちるときさゝ。あゝ水もあびざんとう
きゝやくく。ゝくおち教お茶れ水いえをあげられ
雑水のくふうある又つゝみくやアくえんおのふまゝ。
又ゝふおど言ゝもまさる。ヲくそじやかくおゝ
ようのうむあくぐう。ぢ雨とまれめとあいまる
んぐう。アノおのくふふる言ゝそうる大雪。おびぬさが

国立国会図書館　伊吾物語 208-125
ガラス使用

いろいろにぐ。ゑ(むろ)ひ(ろ)といろぬみきまいられしさ。ヲ、そうじゃな
(法)
むあこぶぶつ(おそばをおく)そういいくそくろくろくろ
ろうトいふのをきくうとあられくろ
ひくござんぶうあびる水々はらく
ねもあろぞぶるくうもへうけこころてわぐひをまぐりくてねぐだ
ぬれてわぐひのろどろぞさむさもいとぐよくかね
(伊ろうろん)(法)
法下さん仕ぞやくおれ(こる)おれ人々とんざと
をいふ見れとうと何があるもれ(伊)それ衣でもいく
(法)(伊あさ)
ばいとをいふ麻ざかうまぎまふみろうるそん(法)

ちらおれまあだんよまろるせんくひもれ(伊)ろくちまれ(法)ヨシ
くひもれがあるさトまこれろうのさ
きれをつんぐちびいぐ(伊)
ぐふきろるせんきろうくトをふとくんとも(伊)ぐあんまり
むさきあへあびのさまぐはこしるあぶろ
そろとひきあげろとねぐれ(伊)ちびいぐおれをおて
ふきもあんのふえどこきろそろちろ
(法)
ろへはをろさろぐおろくおもありまて
ろ(法)
ろへサアくまくぐできろうおろくろ。まづ一心(ろん)
をさえとユクチヨンくトニッてをろち。コントふ

国立国会図書館　伊吾物語 208-125
ガラス使用

ゑやうしよきさは称えのととうふきうの
い別号が狐のおんまくチョンくくとんど而も
をたゞ左右へゑゝき。ギヤフくトうくぶまねをとる。
されど五位踏み九ん今一ツ々チョンくくを考ひま
そうと。両まを見へあそこ。位ゐれをきうくゞ世そう。
手をちうくゞ出をれぐさぶる。さて古語もある。
傾城廓下ぐ手を出をふなかうくゝと

ちうれを城国をかくむけまを傾城のおんとうひまとて忍
なるゞ狐まだし美男陰茶ゞ女まだし貴人高位
ゞ。むうん女ぐゞうめ也。五位警せおんをもぶひ九
さ人深切おうひまうとゝ。うるゞ同もうう
まとうさかひなゝ。それう沸忍三馬鹿くまう
めうまゝ嘘そうとう真言をとうゝ人うの中う
コウやうじをいぐ。在ゞて多ふまんちうをもち国と異

国立国会図書館　伊吾物語 208-125
ガラス使用

のあつまりおれとそうぞうぞとときさふらふ。
うぐ
僧人の同ふ又人くまもせぬ。今夜ぐもつ
そうぐ。初夜ぐれの法ふきもをつぶさせうぶうろぶ
ざるトいひてモうくりくトうぶ
門出いでおんとものうちまもむ夜ぐもつ
のうちくはもちまもむ夜ぐもつ
又そうぐ伊吾をせじをおめあくまも
かうはしまトおまよおまをを
おうぐくうふ
おうぐれの法ぐ同ふまよおまを
ふ。

同ふ見えそうぐ伊吾ふ。今ぐうぐ肉一かうく
ぬくトこう大雄ふぐもあうくかをぶの
たぐるはコレく甚うたぐうぐ。仙法ぐ
まもうぐ居るふ山せまの内ぐおれねとよ
ふあるトひろぐうはの下うサア庄さん八さん一ぢ
まきこぐんいぐ

国立国会図書館　伊吾物語 208-125
ガラス使用

はなこそちかくゆくゑまでもとそのくゐ中をとらへ
あるへくおのろへくトてんでまきものをさゝげ
みそうのやまのれいをうやまふさまきのあしでもてまぢなかに
れがおよそもあへうくとりふみからうとうれまうん
がりおりひれくとさうちのあさうちのあさうちのあさうち
ようもいうそをよくへ申じ（ほよをさゝ
仰ぎつゝうれる也は
けれちいさまゝと
仰
「そでやじ
をまゐん おゝくされ男
ど
名をたてよ君。ゆたうふぶ

らうえんざ仰「ちうとうのうたうぶそをおがむ法
ともちかうとがまん
をゐ
さんありかふトびをおりそへ生
こゝろ仰「山辰を作がちく御
くちくへもぐく。好
の
呑てくる衣てでゆうとおゆうと一斤ぶそ
けまれ神のおりへぐ。ありがてくサア

まんまろといろくおうぎいの一ツまろ
チヨく　チヨノチヨン庄　のむこうまろ　四人　チヨン
チヨく　チヨノチヨン庄　のむこうまろ　四人　チヨン

○伊吾（いご）二十オ
伊吾（いご）たちれこをまろこと
伊吾（いご）心配（しんぱい）のこまろてや。雨（あま）れ降（ふ）もいてこそで。勝ヶ岡（かつがおか）の
八幡（はちまん）へさんけいおうり。ぞもくとも
申程（まをすほど）たなぎき（なぎ）おほ。雪（ゆき）れ下（ふ）れ
ぢ　嬪（つま）のうちふた。五葉（ごよう）の松（まつ）ろく志げ（しげ）り。縁（えん）ろくさくる。

枝（えだ）五六（ごろく）ぶんもりそ（そ）れ。かさくふをぞんぎり
れ青和ふ。
すろ（すろや）柱（はしら）のこきふときのろちりとよろうあり。
見（み）へねど。黒文字（くろもじ）れ神ぞき（かみぞき）あろふや。雨（あま）よりろく。
度（たび）のもろもおもひやれ。それつぎの出格子（でごうし）まで。
きそぶれをかけ。黒方（くろぐろ）ふりひ障子（さうじ）れときをれい。
とろく床（ゆか）へくとふりかてろくゆふ。出格子（でごうし）のせうじを
ろうとあけ。そぶれまきあげさ歌（うた）く女（をんな）を見（み）よ。

国立国会図書館　伊吾物語 208-125
ガラス使用

とうさうをあ〳〵さみりをとぎく人あれど。容顔美麗なる
上。小町。衣通もおれもやうもまさじとぞ。をもひ
〳〵ゝとぞ見れ。かるさもみも身ありげのさまに笑
をふくみ。伊吾をみくわる。伊吾も心もそらへ人〳〵の
ぢ。足ふるく〳〵とうく踏所さへ定まるねむ。大ちる石
（踏はさみ。志送さるよふとよけ扨傘をこぢん
とふぢけ。足弱のさるをとをきれむふぞねうち破り。

おぢ〳〵く起もやうぞ。凡ごうきかゝ
いさ〳〵く居をを。あまりきれどくよ
うちう六十ばかりのおく立生。伊吾
いぶるひいる。伊吾をでめく心づき。志
あをを〳〵ふまく志く。凡ごと志ごれ
ちきけ
情の深ろいろをくせ
ぞれ〳〵よそ伝ふ

国立国会図書館　伊吾物語 208-125
ガラス使用

おけぐちろうくようすがさいまーさ。
めしあれやくおあげなさ。おやくさんもおあさんな
伊 ちはまあひとをおうちとみくへおれ男さいせーあれがお
女 うちをふ居くくチトまをこをう称ーそれおさろばひ
ふ称へ男のうへ。あせがさくーもへ人のせうふちうてわさ
ね。ととーさけがあうくつまうさ山かさんとうう
伊 ふうさーそんちうかさんおあんよおふくろうとうく

女 さくーもちろとおやんちんーとおちうへまる
大残がわけ称へせーさせうぶんさ。きをほるけどど
ぶれもおりてが称へう。ほおひぶうさーさろばひな
きがつきおへんちマア何がとをきぶ
ととをちるとちあるーそれぐもてアーさ
ふーちけびさせうぶ。とくさのーろやおそぶきろ
伊 ちうじん
女 ととさーさ粧進れおまのーちいろ寺れぶうさんを

国立国会図書館　伊吾物語 208-125
ガラス使用

ゐうふあぶらげがいろ〳〵（伊）とてもてなし称ごとれあぶら
げがいちぢんをまさぐらう（女）ぞあくる
あるやへとびけるさんなホゝゝトヨ
まろうろをあろうさんとるんぞのかち手まりおれがうへ
てをそれがあれさちふをまろるとてそ
いくらうさぐりおころそうざらうくとそ
おぼきとまろうへてをれがぐまりと（伊）俗水てふつく
（女）アイタゝゝトかをと（伊）瘡うく
伊吾々をふつまろる拙おをかいぐうろ
ちくなんでもかさときぐうくとそ

（十二）

（20）

（二十五ウ）

（伊）いご吾物語終

○おれあとへ伊吾おさまろそ
はあひちんぎのとまろ
○芝居（しばゐ）えんぶれおうこ
○大銭（おほぜに）もくちんこおかるやふあのとまろ
右々帖数（みぎ〳〵てうすう）をもつて当年（とうねん）丸後編（まるこうへん）に入（いり）申（まうし）候（そうら）事（こと）

（伊）いご吾物語終

○おれあとへ伊吾おさまろそ
はあひちんぎのとまろ
○芝居（しばゐ）えんぶれおうこ
○大銭（おほぜに）もくちんこおかるやふあのとまろ
右々帖数（みぎ〳〵てうすう）をもつて当年（とうねん）丸後編（まるこうへん）に入（いり）申（まうし）候（そうら）事（こと）

国立国会図書館　伊吾物語 208-125

ガラス使用

208
125

そろう加志久金傳香篇草 六冊
あれいもとしが手のくれたるや。古ふく珍敷
神澁の月をうり。古そうが奴秋助おそろきき
のこゑ。むさうもうたがひなく。主人のうそうり。
あやまちて殺せり。古そうが姉小そのが紀念
おくりし形見の兄長庵をあひ。自害せん
とするを。福徳のうそうとて。すり。古そうが
亡かげ。いまふそれを名め大坂のうし
寺ゑく自害たこそとしがれ一子。
古そ助が名よさまうとて。掠り。ぜん妻
ろう妻ちゑヤイ
○こゝとゞこゝとの例式一ト室と文の字の。
ぜひ。ぜひ。合巻ニて先おゐてうり手おきやう
作者梅暮里谷峩てんで形

繪入讀本
加志久金傳香篇 中
今卷 亡冊 未
文化七年庚午春
書肆 外神田所町 鶴屋金助
田 御成道 山崎平八

筆耕 中道 彫工 好静堂
江戸作者 梅暮里谷峩
浮世繪師 酔醒樓北嵩

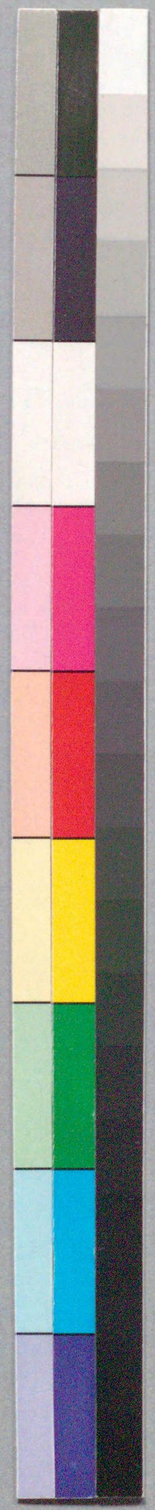
梅暮里谷峩作
歌川豊國画
歌川國房画

国立国会図書館　伊吾物語 208-125
ガラス使用

208
125

国立国会図書館　伊吾物語 208-125

ガラス使用



国立国会図書館　　伊吾物語 208-125

ガラス使用